

## 第4回 市民活動促進協議会（第8期） 会議録

- 1 開催日時 令和4年3月25日（金） 9時30分～11時30分
- 2 開催場所 オンライン
- 3 出席者 <出席委員>山岡会長、山本副会長、池田委員、大畑委員、片井委員、川村（栄司）委員、川村（美智）委員、田中委員、殿岡委員、深野委員  
<事務局>萩原市民自治推進課長、杉山係長、青山主任主事
- 4 傍聴者 0人
- 5 議 事

（司会）

次第2「8年後の目指す姿」について事務局から報告をいたします。

（事務局）

それでは報告事項について説明をさせていただきます。資料1をご覧ください。画面共有をいたします。前回までにご協議いただいた「8年後の目指す姿」について、協議内容を踏まえた修正案を作成いたしましたので、ご説明いたします。なお、本日は案についてのご説明とさせていただきます、本案についてのご意見はメールでのやりとりとしたいと思います。事務局からの修正案は「多様な人びとがあたりまえに活躍できるまち～主体的にチャレンジできる、自発的に支えあいができる、静岡～」としました。案の修正理由についてですが、「多様な主体」について「主体」ではなく、「人々」や「ひとびと」の方がわかりやすい、主体的に参加するということが重要であり「主体」でいい、というご意見がありました。このため、「主体」を「人びと」に変え表現を柔らかくしつつ、副題の中に主体的という意味を残すこととしました。

次に「あたりまえに支え合う」について、「あたりまえに支え合う」だと義務感がある。「支えあいがあたりまえの」の方がいい、「あたりまえに」は「活動」にかかるべきではないか、といったご意見、挑戦や楽しさという要素について、福祉的な要素が強い。前向きな言葉が並列してあるといい、楽しいという要素が欲しい、クリエイトや挑戦という意味の言葉が欲しい、副題に入れる方法もあるかもしれないが、福祉と挑戦は主従、上下の関係にあるわけではないので、並列したほうがいい、といったご意見がありました。このため、「支え合い」の要素と、「挑戦・楽しさ・クリエイト」の要素を副題の中に並列することとしました。ま

た、2つの要素の上位に「活躍」という言葉を置くこととしました。説明は以上ですが、先に申し上げたとおり、この案についてのご意見等はメールでいただければと考えております。特に活躍という言葉などは事務局のほうで入れてしまいましたので、修正すべき点はあるかと思っておりますのでご意見をお寄せいただければと思います。ご意見は4月末を目途にいただきたいと考えておりますが、詳細は後日メールさせていただきます。

(司会)

本項目は報告事項ですので、続きまして議事に移ります。

ここからの進行につきましては山岡会長に議長をお願いいたします。

(山岡会長)

それでは、議事に入りたいと思います。ただいまの「8年後の目指す姿」について説明をありがとうございました。当然、今日の議事はこれに関連することですので、改めて皆さんご確認ください。それでは次第に沿いまして本日の議題は施策の柱の枠組みについてです。事務局から説明をお願いいたします

(事務局)

資料2をご覧ください。第3次計画の12頁から13頁をコピーしたのですが、3次計画で言えば、枠で囲った部分が協議会で答申を頂く部分になります。本日の議題は、施策の柱に該当する部分についてです。

資料3をご覧ください。下段が3次計画に記載されているもので、それに対応する形で上段に4次計画案が記載されています。3次計画に挙げられていた、知らせる、やってみる、深める、つながる、については、前回までの協議会のご意見を踏まえ、「触れる・楽しむ」「動き出す」「創る・実現する」「つながる・変わる」としてあります。

それぞれの説明といたしまして、

「触れる・楽しむ」については、<市民活動へのちょっとしたきっかけの創出>①市民から市民への情報の広がり支援する②市民活動を身近に感じられる情報の発信、「動き出す」については<日常の一部としての市民活動の実現>①多様な主体が市民活動に参加できる環境づくり②気軽に市民活動に参加できる環境づくり、「創る・実現する」については<市民活動を支える機運を高める>①持続可能な市民活動の取組を支援する②市民活動団体の運営を支援する、「つながる・変わる」については<異なる組織や世代をつなぐ取組みの支援>①多様な主体のつながりを支援する②活動を次世代につなげるための支援を行う、としました。

その下の施策の方向性については、答申の範囲外となりますが、現時点での案を参考に記載させていただきます。

「触れる・楽しむ」「動き出す」「創る・実現する」「つながる・変わる」については、主語

が市民となります。下の青い部分については主として行政が行うことを書いているイメージです。

事務局案としてこれを作りましたが、これについての意見を本日はいただきたいと思えます。説明は以上です。よろしくお願いします。

(山岡会長)

ありがとうございます。ただいまの説明に対しましてご意見や質問などお願いいたします。発言の際は、会議録作成の関係で名前を名乗ってからお願いいたします。

先ほどの「8年後の目指す姿」を踏まえての個々の施策の柱ということになるかと思えます。これは事務局案ということですので、率直なご意見をいただければと思えます。

皆様それぞれいろんな立場で市民活動の現場に携わっておられる方かと思えますので、その立場からこれを見たとき、読んだときにどのように感じるだろうか、そういうことを想像しながらぜひご意見いただければと思えます。川村栄司委員お願いします。

(川村栄司委員)

意見の前にちょっと整理をさせていただきたいのですが、資料1の方は今日報告ということで、事務局でまとめていただいたもので、これについては今後メールで意見集約ってお話があって、でも資料3と資料1ってというのは密接不可分な関係にありまして、資料3について意見を言うと、資料1にも関係してくると思えますが、資料1のところを、意見集約を今後メールでという意味がよくわからなかったのですが、どう整理したらいいのでしょうか。

(事務局)

「8年後の目指す姿」についてはこれまで何度か議論をしていただいておりますので、本日こちらに時間を取られすぎてもいけないと考え、メールでやりとりさせていただければと思っておりますが、ご指摘のとおり資料3の部分に關係する部分もありますので、關係する点について資料1についてもご意見はいただいても構いません。

(川村栄司委員)

資料3を読ませていただいて、いわゆる「8年後の目指す姿」が縦に書いてあって、大きな柱が「多様な人びとが当たり前活躍できるまち」と、今の段階ではなっていて、その前は「多様な主体」という言葉を使っておりました。この資料3の中の、施策の柱2の①の部分ですとか、施策の柱4の①ですが、「多様な主体」という言葉が残っているものですから、メインタイトルに合わせるのであれば「多様な人びとが」というようにした方が整合性がとれるかなと思えました。

それと施策の柱2のですね、縦に追っていきますと、施策の方向性ということで、先ほどの話ですと主語は静岡市役所と理解しましたが、この柱2の施策の方向性の(3)があって

「企業や大学等による CSR の促進」という項目があるのですが、言葉の問題なのですが、CSRは「corporate social responsibility」ということで「corporate」は会社という意味であると私は理解しています。大学も含めてCSRと言っていますが、いわゆるアカデミックなところが行う活動もCSRという言葉でまとめていいのかわからなかったのですが、これは半分質問みたいなところですよ。以上です。よろしくお願いします。

(山岡会長)

「主体」という言葉の整合性ですよ。目指す姿で「人びと」と言っているのだからそろえるべきだということで、意味が変わるわけではないと思いますので、その通りだなと思いました。

「CSR」は、おかしいですよ。書くなら「SR」としてCを取ってしまえばいいと思います。意味として大学も含めるのであれば、「SR」であれば全て入りますので、個人も入るし市民活動団体やNPOなども含まれます。

事務局の方でもし何か答えていただければお願いします。

(事務局)

「CSR」についてはご指摘のとおりだと思いますので、再検討いたします。

(山岡会長)

他はいかがでしょうか。深野委員お願いします。

(深野委員)

皆さんおはようございます。深野です。この体系を見させていただいて、ここも入れた方がいいかもしれないなと思ったことがあったので、どこに入るのか、ご議論いただきたいのですが、誰もが気軽にというか、日常的に参加する前提として、市民活動を行う市民の意識醸成みたいなところがあった方がいいなと思っています。

具体的には市民教育、シチズンシップ教育の促進みたいな話がどこかに入っていた方がいいのではないかと思います。というのが、私達は日常的に市民活動のことを考えていますが、一般の人はあまり市民活動とか、市民としてということを考えてないというか、気が付いていないのではないかと思います。そういう意味では、シチズンシップ教育とか、市民教育のような取り組みがあった方がいいのではないかと思います。

(山岡会長)

ありがとうございます。おそらく意識醸成というところを含ませるとすれば柱1のところでしょうか。そういう要素があるといいだろうというご意見です。いかがでしょうか。事務局の方で。

(事務局)

ご指摘のとおりだと思いますので、柱1のところに入れるように検討させていただきます。

(山岡会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。山本委員お願いします。

(山本副会長)

山本由加です。よろしくお願い致します。先ほど川村栄司委員のおっしゃってくださった、中の文章も、「主体」を「人びと」に開くっていうのは、より親しみのわく一貫性のある内容になるなと思った一方で、私は、目指す姿は「人びと」推しなのですが、施策になってくると、先ほど出てきた SR、法人格がひとりの、また社会の中の人として取り組むという表現で気がついたのですけれども、ここまで「人びと」にしてしまうと個人も法人も一緒の主体として取り組むというところがなかなか表現されにくくなるので、「人びと」で開いたところもあっていいけれども、あえて「主体」を使ってもいいところがあるのではないかと。ここは事務局にお任せしたいというか、いち意見としてです。私は個人も法人も一緒の主体だと思っているので、市民活動も個人のみではないと思っているので、かぶせての意見なのですけれども申し上げました。

もう一つ、施策の中に、第3次計画にも明快に書いてなかったのだと改めて思ったのですけれども、法人格を立ち上げるだけが市民活動の立上げではないのですが、「触れる・楽しむ・動き出す」で、今回まとめると余計にくっつきりすると思ったのですけれども、課題を感じてコトを起こす。法人格を取らなくても、任意団体でもいいのですが、コトを起こすことの支援というのはそれこそ中間支援、各センターがやってらっしゃると思うのですが、そこがどこに当たるのかを明快に書くと、初めて見た市民の皆さんが、だんだん触れて行って、でも自分でも起こせるのだと、そういう動線が見えてくるような気がしました。質問ではなく意見でした

(山岡会長)

ありがとうございます。柱の2から3への間というか移行というか、動的な部分ですよ。

「主体」と「人びと」という言葉については、どちらも同じものを含むという解釈はあるけれどもイメージするものがやっぱり違ってきますので、今おっしゃっていただいたような法人だとか組織を強く意識するような場合は、主体という言葉そのまま残すとか、その伝わりやすさを考慮して言葉を使い分けるといったことですよ。ありがとうございます。事務局の方で何か今のご発言についてありますでしょうか。

(事務局)

主体という言葉については、川村栄司委員のおっしゃることも、山本委員のおっしゃることも、どちらももっともだと思いますので、事務局の方で再度検討してみたいと思います。それから、法人格を取るにしろ取らないにしろ、コトを起こすということについては、どこの部分に入ればいいのかなのというのを、皆さんでご意見いただければ嬉しいなと思います。

(山本副会長)

私は「動き出す」の一つだと思っています。

(山岡会長)

そうですね、柱の2のところ、環境づくりということが二つ、①と②で書いてあるのですが、どちらも同じようなことを書いてある感じがするので、どっちかを入れかえて、柱3に繋がるような、山本委員がおっしゃったような、コトを起こすみたいな文言があっていいかもしれないですね。他いかがでしょうか。田中委員お願いします。

(田中委員)

質問です。施策の柱4の方向性(4)、「市職員の意識を改革」とあるのですが、この狙いというか意味と、ここに置いた意味を知りたいです。

(事務局)

「繋がり」というところで、行政と市民活動との繋がりを念頭に置いたときに、行政側の協働の意識が高くないと、それが進んでいけないという課題意識はありまして、3次計画のときから載っている部分ではあるのですが、まだ進んでいない部分もあるという認識は持っておりますので、そういった意味で市の職員の意識を高めて、行政と市民活動との協働を進めていきたいという狙いをこめてここに置いております。

(田中委員)

市の職員の方が政策をそれぞれの局とかでまとめるときに、あの団体があったなと思っ  
ている、そういうことを思い出すような連携を、職員同士でするってということも含まれるということでしょうか。

(事務局)

市の方から市民活動団体に働きかけて何か協働をお願いするということもあると思いますし、また逆に市民活動団体の方から市の方に「こういう事業をやりたい」と言ったときに市の職員の意識が高くなければ、それがうまくいかないと思いますので、市民活動団体の方も積極的に市の方に、協働の働きかけをしていただきたいなという思いもあります。

(田中委員)

ありがとうございます。この「改革」ということで終わってしまっている感じがするので、もう一步、何かゴールになるような言葉があった方がわかりやすいかなと個人的に思います。その言葉がすぐ思い浮かばないのですが、何か付け加えた方がよりわかりやすいかなと思いました。

(山岡会長)

ありがとうございます。改革の先に何があるかっていうことですね。

(田中委員)

そうですね。

(山岡会長)

改革して、例えば協働が生み出されるとか、そういうようなところまで示していただけるといいということです。他はいかがでしょうか。川村美智委員お願いします。

(川村美智委員)

田中委員の意見と近いのですが、私は自治会の役員もしているのですけれども、例えばある地域で NPO と協力して自治会でこんなことをやったというニュースが、あまり情報としてそれぞれの自治会に下りてこないというか、例えばワクチン接種の予約がなかなかできないという話題が去年、一昨年からありましたね。その時、草薙の自治会で、学生さんたちがお手伝いして予約しやすいようにしたという記事が新聞で出ていたのですが、そういうことは個別に新聞なんかでは知るけれども、他の自治会がこんなことやったとか、例えば NPO 活動が入ってうまくいったというような情報が入ってこないと感じています。自治会も市民活動として考えたときに、何か別枠みたいなイメージがあるのですね。自治会で困ったことがあるときに地域総務課に行くのですけれども、そこと市民自治を担当するところとかがどう繋がっているのかみたいなのがちょっとありまして「市職員の意識改革」の中に入るのかもしれないのですけども、市の課同士の連携が、もっとあってもいいのかなと感じています。

この4つ柱のまとめ方は、今までの私達の会議で出てきた意見がすごく出ていて、綺麗にまとまっていると思います。深野委員がおっしゃっていたような市民の意識醸成というところで行政がどのようにやるかわからないですけど、今、中高生ではすごい SDGs の活動が活発なのですね。課題を見つけて何かするということが結構進んでいるのですけど、中高生でやったことと大人の市民活動がうまくつながっていないような気もするのです。そうすると、市役所でいうとどこの課が担当するのかなと思ってしまっていて、そういうところで少し意識改革とともに、それぞれ違う担当課なのだけどこで繋がっているというような連携と

どうか、体系ができないかなとちょっと思いました。それは施策の柱4に入れるのかちょっとよくわからないのですけれども。以上です。

(山岡委員)

ありがとうございます。行政の組織内部の連携ということですかね。中高生というと教育局の担当になるでしょうし、自治会は地域総務課ということですので、行政の縦割りを克服していくことも、協働を促すうえでは必要だろうというご意見かと思います。今のご意見に関して、何か事務局の方でありますでしょうか。

(事務局)

田中委員のおっしゃっていただいた、一步進むような言葉が欲しいというご意見、川村美智委員の課同士の連携というのも、二つともとても参考になる意見で、我々としてもその課題解決をしていきたいというのは考えておりますので、何とかうまくまとめて柱の中に落としていきたいと思っております。ありがとうございます。

(山岡会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(殿岡委員)

殿岡です。お願いします。今の意見に対して大賛成です。私自身も青少年育成会とかで学校と地域の間に入る活動をやっていまして、若い子たちが結構こういう活動に興味があるということとはとても感じております。逆に30代40代50代になると、こういう市民活動は大事だとわかっていてもどうしても距離感があって一步踏み出せない、もしやるとしても、自治会の方々、高齢者が率先してやってくれるということで、何とかこの間を若い世代と高齢者、全体的にみんなが意識改革に繋がらないかなと、今日の話にも出ましたし、ぜひこの縦割りを何とかしてもらって、特にこの話というのは教育委員会と連携してもらって、部活動にボランティア部を作ってもらって、サークルみたいなものでもいいのですけれども若い子たちが地域の活動に目を向けてくれるとか、そこで高齢者と協働で事業してくれる、自然に20代30代40代とこの活動に入ってくるのではないかなと思っておりました。特に8年後という姿になりますと今の子たちが社会に出たときに、成長してくれると非常に良いのかなと思って、先ほどの意見とだぶっているのですけれども。何とか市の方でも考えていただければと思っております。

(山岡会長)

ありがとうございます。心強いですよね。そういう若い人たちがそのことに興味を持っているということを現場で実感されていること。あとは、おっしゃるように8年後ですから、今

18歳の子が8年後は26歳ですよ。そういうことをイメージすると、やはり今、活動している人たちと若い人たちがどう繋がってかかっていうこと、その接続はすごく強く意識しなきゃいけないと思います。ありがとうございます。いかがでしょうか。山本委員お願いします。

(山本副会長)

ほとんど皆さんの意見を聞いて思ったことなのですからけれども、まず田中委員がおっしゃっていただいた、「市職員の意識を改革」は、3次計画のときに最後に入って、今回、4次計画も最後に入って、一体中身はなんだろうと置いていたところでしたので、わが意を得たりというか、昔に比べれば圧倒的に良くなったとはいえ、田中委員のような若い皆さんにとっては昔のことは関係なく、これからより一層意識改革をしていただかないといけないフェーズなので、ぜひこの中身を市のほうにもう一度考えていただきたいということを本当に願うところです。そもそも市民活動のずっとスパイラルでだんだん上って行った政策の柱の最後に来ることなのかというのが私の疑問ではありますが。昔話で申し訳ないのですが私この協議会で、六、七年前ですね、事務局の市の職員の皆さんの中で、個人で市民活動やっている方、自治会の清掃活動以外のことでやっている方はどれぐらいいるかを聞いて手が挙がらなかった衝撃のことを思い出しますのでけれども。義務としてやれではなく、知らないとわからないですよ。政策にも結び付けることができない。その中間に立って苦勞されているのが事務局、市民自治推進課の皆さんだと思うのですが、せっきやく3次計画と比べると4次計画の中身がすごく立体的になって、現実味が増してきたのであれば、その部分をもっと豊かな表現にさせていただきたいなと思ったのが一つ。

そして次のお話で、縦割りをどうにか、横串を刺すにはどうしたらいいかってお話、今出てきたと思うのですが、私ここでぜひ、ジャストアイデアにちょっと近いのですが、市のwebサイトですね。そもそもの設計上の問題で使いづらいのですが、その設計自体を考え直すことができるのであれば、市民のためというよりも、市職員のための市民活動アーカイブスとして、これを見ればこの地域で何やっているかわかる、学校も、自分の学校の周りでどんな人たちがどんなことをやっているのかわかる、自治会も、他の自治会だとうしているということを、池田委員がたくさんアーカイブスをお持ちだと思うので、そういうものを見ることができるものになると、本来の意味が発揮されるのではないかなと思いました。やはりどこかで見るところがあるのですよね。市の職員さんは異動なさるので全部を網羅できているわけではありませんから。今の話ではないです。8年後にそれが当たり前になっていたなら、この議論がとても意味のあるものになるのではないかなと思いました。感想です。ありがとうございます。

(山岡会長)

ありがとうございます。昔に比べたら良くなったって新しい人には関係ないですよ。昔に

比べたら協働という言葉も浸透しているし、よくなったとは思いますが、現実には、私もいろんな現場で、まだまだだなど思うところもありますので、まさに、やっておられる方から、いやそれじゃまずいだらうって声を出していただいて、せめてこういう場では反映させていければと思います。あと Web ページの改善という意見もありました。事務局はいかがでしょうか。

(事務局)

山本委員が今おっしゃっていただいたのは「ここからネット」が念頭でございますか。

(山本副会長)

そうです。

(事務局)

はい、わかりました。ここからネットの活用についてはですね、我々も進めなくてはならないとされているところですので、ご意見いただきながら、いいアイデアをいただけたらと思います。今おっしゃっていただいた通りだと思いますので、市民活動の結果というか、こういうことを皆さんがやっているということ共有するというのが大事だなと思っておりまして、施策の柱3の施策の方向性(1)で「市民活動団体の活動に関する好事例の共有」と書かせていただきましたけれども、ここの部分にかかるのかなと思いますので、今後力を入れてやっていきたいと思っております。

(山岡会長)

ありがとうございます。行政の課とか部署とかの枠を超えていくようなことがわかるような表現を入れてもらえるといいという気はします。難しいこともあると思うんですけど、それがわかるような表現を入れていただければと思います。いかがでしょうか。

池田委員お願いします。

(池田委員)

よろしくお願いします。今、ちょうどお名前いただいたので、それに付随してのことなのですが、意識改革の中で、職員が知らないということは、山本委員がおっしゃっていましたが、すごくそれがあると思っていて、特に、前もちょっとお伝えしたのですが、やはり分類ができてないと思うのですよね。「市民活動」であれば全部「市民活動」ではなく、その中でもいろんな種類があって、その種類とか、特性によって支援というのは全然違うという前提があるということもご理解いただきたいと思っております。別の話ではあるのですが、やはり横断、連携とか、自治会に関しては川村委員がおっしゃっていたように、すごく実感しています。私達も力及ばずですけども、少しずつ進められるようにはやっているの、今の

話を聞いてもう少し踏み込まなきゃということを感じたというのが、感想です。その中で、分類ができていないという話の中で一つ、施策の柱2の中の方向性（5）で、「市民活動団体の開かれた組織づくりを支援」ということなのですが、私の中でこの「開かれた」ということにすごく違和感を持っていて、市民活動団体の活動の種類によっては開かれていることがいいとは限らないと思っている部分がありまして、言葉の持っていくかたなのですけれども、開かれないことで逆に進む活動というものもあるのではないのかと思っています。質問ですけど「開かれた組織」というものがどこの部分を「開かれたもの」と、ここで「開かれた」と書くと誰でも来ていい市民活動団体が良い活動であるということになってしまうのですが、中にはそうではなく、専門性を深く掘り下げていくことをよしとする活動もあると思いますので、ここがひとつ疑問でした。

あと全体的になのですが市民活動センターを使うことが促進になるという大前提が、今までずっとそうだったので仕方がないのですけれども、やはりそこがあるのかなと。例えば、施策の柱の1の方向性（3）なのですけれども、市民活動センターを通じた市民活動への参加の促進だとか、あと施策の柱3の方向性（4）、市民活動センターによる市民活動団体の運営支援なのですけれども、例えば、今、私は地域デザインカレッジをやっていて、生涯学習推進課のところ自治会の方が相談に行くんですよ。そこでいろいろ教えてもらって次の活動に繋げていくということもやはり起きているのですね。ですので、言ってしまうと市民活動センターに限らず、市職員とかその担当課がちゃんと動くことで市民活動が動くというケースもあると思うので、できればこの主語はもうちょっと広げていただいた方がいいのかなと思いました。そうでないと職員にとっても誰かがやればいいことで終わってしまうので、できましたら市職員の、市民活動団体を動かすことができる、支援することができる1人であるという意識は持っていただく必要があるのかなと思いました。以上です。

（山岡会長）

ありがとうございます。いくつかあると思うのですが、一つは「開かれた」ということですね。これは「組織づくりの支援」ということでいいような気がします。開かれたという言葉はもちろん市民活動ですから、情報公開や市民参加など、いろんな意味で外に開かれていないとまずいのですけれども、今おっしゃるように専門性を高めてやることも当然あると思いますので、必ずしもそれだけではないということであれば「組織づくりの支援」でもいい気がします。あと市民活動センターを活用することが前提になっているのではないかというご意見かと思います。それ以外の行政からのアプローチも当然含まれるはずなのに、それが表現されていないのではないかというご意見かと思います。事務局の方がいいでしょうか。

（事務局）

ありがとうございます。「開かれた」については「動き出す」というところにひっばられて

いるというか、動くために市民活動団体に入るといったイメージがあったのですけれども、おっしゃるとおりで、それ全てではない、そういう組織ばかりではないということ、よくわかりますので、これについては表現を変えたいと思っております。それからセンターの活用についても、もしかしたら我々も連携が足りないというか、センターの話しか頭になかった部分もあり反省しているところですが、おっしゃるとおりだと思いますので、センターに限らず、いろんなチャンネルがあるということ表現できるようにしていきたいと思っております。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。よろしいですかね。他いかがでしょうか。

(大畑委員)

市民委員の大畑です。協議会参加するのを今回初めてで、ボランティア的なものをやるのはですねまだ3年ぐらいで全く駆け出しなんですけれども、感想と意見を述べさせていただきます。皆さんいろいろお話をされているものですから、目新しいものはないのですが市民感覚で話をさせていただきます。今、市民活動センターがですね、間口が非常に狭いなというように感じています。これだけでは、膨大な施策がいろいろありますけど、実現不可能ではないかと感じます。

それと、今やっている環境関係の活動があるのですが、意見が出ていましたが、学校からいろいろと環境教育の依頼がありまして、私どもはそれに乗っかって支援させていただいているのですが、それがどうも連携を感じられないんですね。先ほどから出ている話なんですけど。こういう事業をするときに何課、こちらは何課と、全部バラバラなんですよ。どこの課に行ったらいいかわからないんですよ。

また、私どもの団体はNPO法人化していないんですが、壁としてあるのが人の問題、若い人がなかなか入ってきてくれないということと、NPO法人は会計的な要素も入ってきますから、クラウドファンディングなどは夢の世界であるということなんですよ。

例えば施策の柱3の「マネジメント能力の向上」の中に、例えば会計ソフトやアプリだとか、そういう支援をしてもらえないかなと思うこともありますし、それと「ここからネット」ですね。これも私どもも扱ってもらっているんですけど、何も接点を感じられないんですよ。情報が上がってこないし。もうちょっと充実して見やすいものにしていただきたいと感じています。また、横串という話が出ていましたけど、やはり市職員の連携ですね、市民自治推進課だけではなく、他の人たちも、市職員の意識改革をお願いしたいと思っております。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。市民活動センターの間口が狭いというご発言があったと思います

が、もう少し具体的に説明いただければと思うのですが。

(大畑委員)

市民活動センターだけでは間口が狭い、ということです。

(山岡会長)

わかりました。池田委員と同じ趣旨のことですね。ありがとうございます。

あと、学校との連携で、学校からの依頼があるときに横の連携ってというのは、まだまだと感  
じることがあるのですね。若い人が入ってこないということも課題だということで、他方、  
先ほど別の委員の方から、青少年が関心を持っている感触があるというご発言もあったの  
で、やはりそこはうまく繋がっていないという感じはしますよね。

もしかすると、そういうことも、施策の柱1になるかと思うのですけれども、若い世代に対  
するアプローチみたいなことも明確に入れてもいいかもしれないですね。ありがとうございます。  
今のご発言について事務局の方から何かあればお願いします。

(事務局)

若い人へのアプローチについて、世代で差があるかと思imasるので、そういうところも表現  
できるかどうか、再度検討させていただきます。

また、団体の会計支援がされてないというようなお話があったと思imasけど、市民活動セ  
ンターへ相談いただければ対応できるような体制にはなっていますが、周知が足りてない  
ということなのかなと思imasるので、市民活動センターで対応できる業務や、センター自体  
についても市民の皆さんに知ってもらうということが必要ですので、課題認識として持つ  
ていきたいと思imas。ありがとうございます。

(山岡会長)

他いかがでしょうか。

(片井委員)

片井です。意識改革の話が出ていましたけど、役所の意識改革は昔から言われてきましたが、  
だいぶ変わりました。それだけではなくて住民側の意識改革もかなり必要かなと思ってい  
ます。というのは、いろいろなことをやっても、中にそれは俺らのやることかっていうよう  
な言葉が結構出てくる。話を聞けば、それは市がやる仕事だろう、県土木事務所の仕事だろ  
うという話が結構出てくるわけですけど、防災の観点からいって、自分の身を守るためには  
自分たちでなんとかしなくてはいけない。行政を待っていたら危ないよという話もありま  
す。

それと先ほどワクチンの話に出ましたけど、私の団体でもやったんですけど、結局周知が悪

かったのか、利用者がおらず、後で笑い話になったのですが、そういう活動は他でもおそらくやっていたと思いますが、それが情報として出てくるのは、結局は自分たちが新聞社に資料として投げ込むか、たまたま見つかりと新聞にも出てくるのですが、自分たちの活動、NPOと自治会の連携とか、自治会連合会との連携とかやっているのは多々あると思うんですよ。それをどうやって自分たちから発信して、横串の話が出ていましたけど、活動団体そのものも、横との連携、横串を刺して、隣で何をやっている、あっちのほうで何をやっているということが入ってくる仕組みがあるといいと。それも行政がここからネットに、情報を集めて載せるだけでは集めきれないと思うからリンクを貼るなり、貼る際には当然チェックは必要ですけど、そんな格好で自分たちの活動の方でも横串が必要かなと感じました。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。住民の意識改革ということについては最初に深野委員からもご指摘あったのですが、やはり市民活動ではとても重要なことなので、再度強調する必要があるということをご指摘いただいたかと思います。

情報に関しては、もう少し、行政サイドの施策ということだけではなく、団体側も自分たちの活動とそれに繋がるような活動についての情報収集も必要だということですかね。

(片井委員)

情報は自分から集めなくてはやはり駄目だろうし、必要なものを、情報が溢れているのでその中から探し出すということもあります。自分のやっていることは普通だと思っているかもしれないけれども、他から見るとすごいことをしているということもあるかもしれないので、各自情報発信してもらって、それを周りが選択して受け入れていくという仕組みはあっていいかなと思いました。

(山岡会長)

そういうことも含めた住民側の意識改革ということですよ。今のご発言について事務局から何かありますか。

(事務局)

市民の意識醸成は非常に大事なことだと思いますので、検討させていただきます。自治会の、活動団体からの発信について、行政としてはそれを支援する立場になろうかと思っておりますので、今のところはここからネットという形に集約し、紹介する形になっていますが、今のお話を聞いて、例えば報道機関への投げ込み等もできる団体とできない団体があると思いますので、そういったことの支援も今後必要になっていくのかなと感じました。今後の施策に反映させていければと思います。

(山岡会長)

他いかがでしょうか。池田委員お願いします。

(池田委員)

少し戻ってしまうのですが、先ほど大畑委員が発言された内容に付随してですけれども、寄附やクラウドファンディングがとてもじゃないけれども、ということをおっしゃっていたことを考えると、施策の柱3、方向性（3）ですが、「寄附、クラウドファンディングの支援」ではなく、事務局も先ほどおっしゃっていたのですが、会計支援を意味しているということであれば、ここは寄附とクラウドファンディングでなくてもいいのではないかと思っています。資金調達するかわからないのですけれども、会計支援をする必要性ということをここで言いたかったのかなということを考えると、寄附やクラウドファンディングだけでどうにかなるものでもないですし、それがあれば解決できる問題でもないのも、もし会計支援ということであれば、そちらの方の意味に変えてもいいのかなと思いました。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。資金調達の手法は多様なので、団体ごとに違いますから、少なくとも「等」を入れるとか、クラウドファンディングがそぐわない活動もたくさんありますから、ご指摘の通りかなと思います。今のご発言に対して事務局から何かありますか。

(事務局)

もう少し広げるというか、他のチャンネルもあるという表現も必要だと思いますので、例えば資金調達支援といったような表現に変えた方がいいのかなと思っております。

(山岡会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。川村美智委員お願いします。

(川村美智委員)

先ほど池田委員が、活動にもいろいろなタイプとかジャンルがあるというお話をされていたので、行政にお願いしたいこととして、大まかに体系だった、例えば福祉的な活動されているところとか、あるいは青少年の育成とか、行政なりの分類をしたうえで、市民活動を担当している部局が把握していて、別の課から「こういう団体ないですか」と言われたときに、すぐに紹介できるような機能をもっただけだと、また、常に更新されていく形のものを作ってもらえたら、市民にとってもアクセスしやすいし、もちろん行政の中でもアクセスしやすいのではないかと思います。

(山岡会長)

はい、ありがとうございます。事務局のほうでいかがでしょうか。

(事務局)

委員がおっしゃっていただいたのは、例えば市の仕事の内容を一覧にして、我々なり、市民活動センターに市民活動団体等から相談があったとき、関係しそうな部署へ繋げることができたらいいのではないかという意図でしょうか。

(川村美智委員)

そうではなく、例えば市民活動センターに登録している団体がたくさんあると思うのですが、それだけでもいいので、それらの活動を大まか体系立てる。市の業務のことではなくて、活動している団体を把握するときに、青少年育成であればこういう団体があるとか、あるいは団体同士が関わっていることがわかる図を作っていただいて、それを行政の方たちが持っていれば、課同士で、こういう団体がないかというお問い合わせがあったときに、すぐ紹介できれば、お互い連携し合えるのではないかと思います。

例えば施策の柱4の中の②に「市民活動団体同士の連携支援」があるのですが、これは「同士」というよりも、市の拠点みたいなところをつくって、そこで市職員が把握しているということを含めたらどうかと、ちょっと説明がうまくいかないんですけど。

(事務局)

意図がくみ取れず失礼いたしました。よくわかりました。今、ここからネット上では、登録している団体がそれぞれどの分野で活躍しているかというのを、NPO法の20分野に沿って登録いただいているところでありまして、大まかにはわかるようにはなっているところではありますけれども、それを川村委員が今おっしゃっていただいたように、完全に活用できているかという、そうではない部分もあると思いますので、この分野わけされている団体の情報を、市民の皆様も、行政も活用して活動を進めていけるにはどうしたらいいかっていうようなところは今後考えていかなければいけないと思いました。

(山岡会長)

ありがとうございます。よろしいですかね。いかがでしょう。

(深野委員)

今の川村委員の意見に関連してなのですが、実際にその取組を市民活動センターでは実はやっていて、ポータルサイトには、分類されたり、その検索することによって、こういった分野の団体はどこにあるのかなということを検索することもポータルサイトとしては既に用意されています。ただ、そこに載っている情報だけでは具体的にわかりにくいので、そう

いったときは、ルートとしては、市民活動センターに行って、私こういうことやりたいんだけど、こういう団体ないかしらみたいなの、そういった対面相談というのを、既にやっています。ただ、それが知られていないことが問題なので、今の事務局の回答とすれば、それらをより充実するとか、既に形としてはあるわけなので、それを発信するとか、ということになるのかなと思います。私も裾野市で市民活動センターをやっていますし、番町市民活動センターの活動も見ていて思うのですが、いろんなイベントや媒体はあるんだけど、そこに乗ってくる人たちが少なかったり、SDGs フォーラムなんかでも、場面はある、行けばいろんな人に会えるという設えはできているんだけど、そこに行かないという。市民側の意識というところが、やはり足りない部分もあるんじゃないかと。なので、今の議論を聞いていると、事務局が、行政が、足りないことももちろんあると思いますけど、それを全部外側に言ってもこの問題って解決しないので、まずは市民としての、市民意識の醸成は必要だし、今あるいろいろな媒体をどう活かすのかという方法論の議論が必要ではないかと思います。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。川村美智委員お願いします。

(川村美智委員)

すいません、私の説明は本当に悪いんですけど、私が言っているのは行政に知ってほしいということなんです。つまり市民同士に知らせるツールはあるけど、例えば教育政策をやっている人たちが、どういう市民活動をやっているのか知らない。だから、少しあざといのですが行政の方が、こういうことをやるにはこの団体が使える、というような、そういう発想をもってもらいたいという意味です。

(深野委員)

ごめんなさい、被せて言いますけど、そういう意味では同じで、市民自治推進課は市民活動を意識してよく知っているけれど、よその課に行くと、何それみたいな雰囲気があるのは感じますし、そういう意味では市の職員さんたちが、市民活動がどのようなものであって、市民協働がどういうものであるかっていうことの意識の醸成というか、意識化はとても大事だと思います。

(山岡会長)

池田委員お願いします。

(池田委員)

今の話について、市民活動センターとして分類できているということは当然だと思ってい

るので、分類できていて当たり前なのですが、もちろん川村委員がおっしゃるように、市が知るといことは大事なんですが、知るのも、ただこういう団体がある、ではなく、資金的な援助が必要になる団体なのか、広報の支援が必要なのかという、支援をもとにした分類が必要、なぜなら私達は市民活動の促進をするからという、やはりその視点が大きく欠けていると思うのですね。なので、単なるこれは高齢者支援、これは自然環境教育というそういう分類ではなく、各団体の特性ですね、深く掘り下げていくのか、広く広報することで活動がもっと促進されるのかというその活動自体の特性を理解して把握したものを共有していくことが大事なのかなと思います。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。どうでしょう。そういうレベルのことは、市民活動センターでは、例えば担当レベルで把握しているのでしょうか。市民活動センター関係の方がおられれば何かご意見いただければ。深野委員お願いします。

(深野委員)

そこまでの詳細を、各団体の財務状況や支援その必要性のところまでを把握しているかという、それはかなり難しいのではないですかね。言ってきてくれたらわかるけれども、こちらが調査なり何なりして、各団体の状況を細かく把握することは、現実的にかなり難しいことではないかなと。そうあれば、より良いと思うけれども、現実的にできているかというできていないし、できないんじゃないかなと個人的に思います。そのレベルはあると思いますが。

(山岡会長)

山本委員お願いします。

(山本副会長)

今のお話を聞いていて、行政にとって市民活動って「助けてあげる」というのは市民活動促進、今の事務局さんが仕事としてやることで、そうではないんですよね。協働するに足るかどうかが。そこに資金的体力が少ししかないのであれば、それについて考えることは、市にメリットがあるからできる、税金投下する価値があるかどうかとか、いや、ここ結構体力あるから、しっかりと協働ができるなどか、ここは本当に資金もなくて、でもやろうとしているテーマはすごくエッジが効いていて大事だからパイロット事業に推してみようかな、とか戦略が立てられるかであって、私達、申し訳ないですけど、必死にやってきてですね、お世話されたいって思っていないんですよね。されたいんですけど。でもされたいって思っていないんです。なので、市の方が持つべき情報はお世話をする程度の情報ではなく、もっとクールでいいんですよ。役に立つかどうか、市の施策に役に立つかどうか、どうやって組んだらいいの

か、それを考えると、この施策の柱の4の最後に市職員の意識を改革とかそういうレベルでは、そういう時代ではもうないでしょ、これだけ人口が減って、生産人口がどんどん流れていく状況で、本当に総動でやらないとまずいですよ。だから、そういう情報も市の職員さんもちょうと持って、ステークホルダー感が古いんですよ。学校の周りだとPTAと自治会とか、協働しなきゃいけない相手というものが固定されていて、その他はスコープに入っていないというのが問題で、もう時代が変わって、ステークホルダーのイメージがガラッと変わったってことを、市民も、市の職員もどうそれをイメージするかっていう、そこはやはり行政の仕組みの力が必ずいると思います。これから8年やるべきは、その価値観をどう変えて、社会の見え方をどう変えていくかということが市も私達もやるべきことなんだと、確認させていただきました。ありがとうございます。

(山岡会長)

ありがとうございます。おっしゃる通りですね。そういう要素はここまで議論してきた「8年後の目指す姿」、今回提示いただいたこの赤字とか太字の部分に結構含まれているなということを感じながら見ておりますので、よりわかるように、あるいはより明確にメッセージとして打ち出していくことは必要だと思います。他はいかがでしょうか。

この基本計画を出したときには「目指す姿」が一番表に出るわけですけど、同じようにこの施策の柱もぱっと目に飛び込んでくるものなのでぜひ、ご意見ご感想でも、市民目線で、ということでも構いませんのでぜひご発言いただければと思いますいかがでしょう。

(殿岡委員)

施策の柱1の①②というところで、市民から始める情報の広がりとか市民活動を身近に感じる情報の発信になるのですが、根本的に市民への情報の広がりというか、情報を発信してもらいたいとか、教えてもらいたいということがありまして、池田委員がやっているデザインカレッジ等に行きまして、やはり情報はすごく大事だなと。一体静岡市では何が困っているのかっていうのは、今ひとつ見えてこないということは実際ありまして、もちろん困っている人がいることはわかるんですけども、この情報というのが、できたら、ちゃんとした団体なら教えてもらえるようなシステムが欲しいというところなんです。今ちょうどACジャパンで民生委員とかのCMやっているんですけども。すごくわかりやすくて、どういう団体が困っていて、こういうことをやっているというのもCMとかで出してくれるといいなと思ったんですけど、その前にまず、いろんな数値を、フードバンクが必要な人間がどれくらいいるのかとか、貧困率がどれくらいとか、そういうものを身近に得られるような、独居老人がどれくらいいるのかということ等も教えてもらえたらすごく助かるなと思いました。施策の柱1の③として、市民への情報の広がりを支援するみたいな、市民から市民へではなく、市民への情報の広がり支援することを入れられたらいいなと思いました。どうでしょう。

(山岡会長)

ありがとうございます。当然そういうことも含まれていると思いますけれども、事務局の方で今のご意見についてあればお願いします。

(事務局)

参考にさせていただいて、入れるように検討したいと思います。

(山岡会長)

他いかがでしょうか。

(事務局)

事務局からよろしいでしょうか。

(山岡会長)

はい、どうぞ。

(事務局)

赤い部分も結構重要になってくると思うのですが、皆さんの意見をもとに変えたところではあるのですが、これでいいかどうか、ご意見があれば今一度いただきたいのと、その下の括弧について太字の部分についても、ご意見をいただければなと思っておりますので、併せてよろしく願いいたします。

(山岡会長)

どうですかね、今のところ赤字の部分とか、その下の太字の括弧の部分は特段ご意見出てないのですが、私は結構、特にこの第3次計画との比較が下にあって、わかりやすく、今まで皆さんとワークショップもやってきて、目指す姿について考えてきたこととか、そこで共有した思いがうまく反映されているという印象です。特に施策の柱1、「知らせる」から「触れる・楽しむ」になっているのと施策の柱4が「繋がる・変わる」になっているのは、ぱっと見たときにいいなと、私は思いますけど、皆さんぜひご意見いただければと思います。

(山本副会長)

とってもいいと思っています。その一言に尽きます。この8年の歩みが見られる内容になって本当にいいなと思っています。以上です。

(山岡会長)

ありがとうございます。よろしいですかね。

確認ですけど、今ここで資料も見て、皆さんからご意見いただきましたが、この後気が付いたことがあれば事務局にメールでご意見することも可能と考えてよろしいですかね。

(事務局)

そのように考えております。皆さんには別途メール等でご連絡したいと思っております。よろしく申し上げます。

(山岡会長)

わかりました。この場ではひとまず、施策の柱のキャッチというのでしょうか、一応これでいいだろうということでもいいですかね。

多少まだ時間はあるわけですが、特にこの場でのご意見ということがなければ、この議事についてはここで終わりにしたいと思いますけどよろしいですか。ありがとうございます。今日の議事はこの1件ですので進行を事務局にお返しします。

会議録署名人

会 長